

中学校体育において生徒が望む教師からの「ほめ」に関する研究

－自己肯定感の高低と体育の好嫌に着目して－

坂本 舞夏 (広島大学)

1. 目的

本研究では、中学校体育において自己肯定感の高低・体育の好嫌によって、生徒が望む教師からの「ほめ」の内容は異なるのかについて明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

学校体育において生徒が望む教師からの「ほめ」に関する質問内容は猪股・茅野 (2021) の教師からの「ほめ」に対する嬉しさ尺度の質問内容を体育授業における表現に修正して用いた。

- 1) 対象者：X 大学附属 Y 中学校の 1 年生から 3 年生 (207 名)
- 2) 調査方法：2022 年 11 月 24 日～12 月 8 日
- 3) 分析方法：自己肯定感 (高群、低群) / 学校体育 (好意群、非好意群) × ほめ (受容・尊重・労いのほめ、期待・励ましのほめ、賞賛のほめ) の 2 要因混合計画による分散分析を行った。次に、「ほめ」の種類間に差があるかを検討するために、3 種類の「ほめ」間で Holm 法を用いて多重比較を行った。なお、有効水準は 5% とした。

3. 結果と考察

- 1) 自己肯定感と教師からの「ほめ」との関連
全ての「ほめ」において、自己肯定感低群よりも自己肯定感高群の方が平均値が高いことが分かった。(表 1)

表 1 自己肯定感高群・低群における「ほめ」の尺度得点の平均値と標準偏差

種類	自己肯定感	平均値	標準偏差
受容・尊重・ 労いのほめ	高群	3.32	0.74
	低群	3.02	0.80
期待・励まし のほめ	高群	2.80	0.95
	低群	2.39	0.89
賞賛のほめ	高群	2.97	0.93
	低群	2.60	0.93

また、自己肯定感高群・低群ともに、結果や行動を肯定的に評価する「賞賛のほめ」よりも「受容・尊重・労いのほめ」を望む傾向にあると考えられる。

- 2) 体育好嫌と教師からの「ほめ」との関連
全ての「ほめ」において体育非好意群よりも体育好意群の方が平均値が高いことが分かった。(表 2)

表 2 自己肯定感高群・低群における「ほめ」の尺度得点の平均値と標準偏差

種類	自己肯定感	平均値	標準偏差
受容・尊重・ 労いのほめ	高群	3.32	0.74
	低群	3.02	0.80
期待・励まし のほめ	高群	2.80	0.95
	低群	2.39	0.89
賞賛のほめ	高群	2.97	0.93
	低群	2.60	0.93

また、体育好意群・非好意群ともに、「賞賛のほめ」よりも「受容・尊重・労いのほめ」を望む傾向にあると考えられる。

4. 結論

本研究では、自己肯定感の高低・学校体育の好嫌に関わらず、「受容・尊重・労いのほめ」を最も望んでいることが明らかになった。また、自己受容ができていない可能性のある自己肯定感低群の生徒に対しては、特に、長所と短所を踏まえた声掛けを行ったり、生徒の話を真剣に聞いたりするなどの「受容・尊重・労いのほめ」のような関わり方の検討が必要であると考えられる。

5. 主な参考文献

猪股由衣・茅野理恵 (2021) 自尊感情と教師からの「ほめ」に対する反応との関連. 信州心理臨床紀要, (20) : 27-50